

② 合同シンポジウム

第4回 合同シンポジウム

概要と目的	3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する
日 時	令和8年3月14日（土）14:00～17:00
場 所	高知市文化プラザ かるぽーと 龍馬学園イベントホール (対面とオンラインによるハイブリッド開催)
主 催	高知大学
後 援	高知県、(一社)高知県医師会、(一社)高知医療再生機構
参 加 者	201人(現地87人、オンライン114人)
次 第	
14:00	開 会
14:05	挨拶 高知大学医学部長 井上 啓史(黒潮医療人養成プロジェクト事業責任者)
14:05	祝 辞 高知県知事 濱田 省司
14:15	特別講演「ポストパンデミックの地域医療を考える 培われた地域連携の未来図」 講師/高山義浩氏(沖縄県立中部病院感染症内科地域ケア科) 座長/阿波谷敏英(高知大学医学部 家庭医療学講座 教授)
15:25	休 憩
15:35	参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」 進行/西山謹吾(高知大学医学部危機管理医療学講座 特任教授)
16:15	取組事例報告 ～プロジェクト履修学生による発表～ 1. 高知大学 医学科2年生4名 「へき地での体験を糧に今後の研究へ ～北海道・沖の島・土佐山診療所 心配性と不適切処方～」 2. 和歌山県立医科大学 医学科3年生 「遠隔外来利用の促進・阻害要因の探索」 3. 三重大学 医学科1年生4名 「気軽に誰でも集まれる場所をー住民と住民、住民と大学生を繋げたいー」
16:50	次回開催地挨拶 三重大学医学部長 平山 雅浩
16:55	閉会挨拶 高知大学学長 受田 浩之
17:00	閉 会

Ⅲ. 事業実施状況報告

参加者内訳

	計	高知	和歌山	三重	3県以外(不明含む)
医 学 生	80(51)	52(34)	23(16)	4(0)	1(1)
上記以外の医療系学生	1(1)	1(1)	0	0	0
中 高 生	12(7)	9(6)	0	0	3(1)
大 学 関 係 者	86(42)	68(36)	7(0)	8(4)	3(2)
地 域 医 療 機 関	12(7)	7(3)	3(3)	0	2(0)
行 政 職 員	6(4)	4(2)	2(2)	0	0
その他(不明含む)	4(2)	3(1)	0	0	1(1)
計	201(114)	144(83)	35(21)	12(4)	10(5)

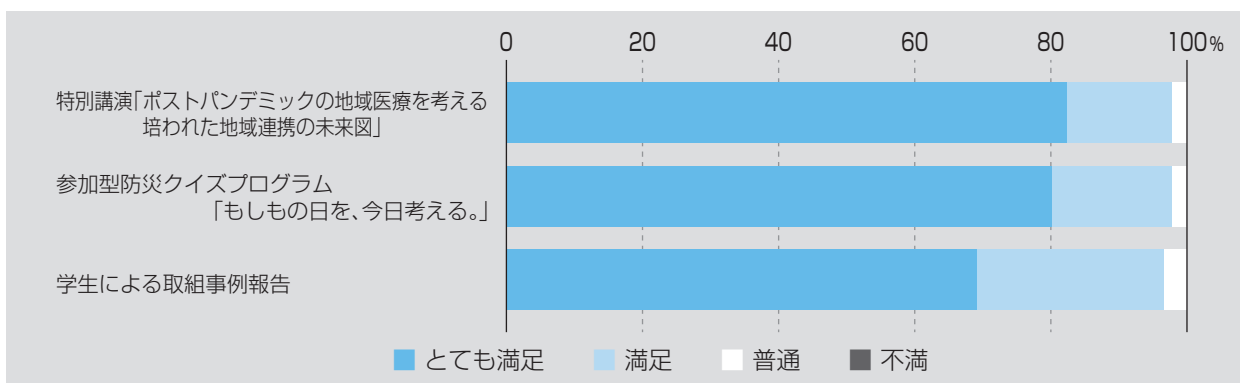
注 ()内はオンライン参加者数

参加者アンケート

回答者 92 人

(医学生 42、医療系学生 1、中高校生 7、地域医療機関 3、行政関係者 4、大学関係者 35)

【各プログラム満足度】



アンケートより (自由記述)

●特別講演「ポストパンデミックの地域医療を考える 培われた地域連携の未来図」

医学生

- ・とても有意義な時間だった。
- ・「システムが人の意思を封じてしまう可能性がある」という話が印象に残った。
- ・地域医療のあり方を改めて考える機会になった。
- ・行政としての患者さんのケアだけではなく、地域の支え合いとしての、カルチャーとしてのケアを行うことが大切だということがとても印象的だった。
- ・患者さんやご家族の考え、医療的な面での行うべき治療が複雑にかみ合わない場合、本人の意向を大切にしつつ、話し合いを進めていくことの大切さを、実際の症例をもって感じた。

中高生

- ・ただ病気に対してテキパキと手術をすれば良いというわけではないのだなと思った。
- ・行政と医療の関係やコロナ期の医療体制について知ることができた。

行政職員

- ・地域医療と行政の関わりについて理解が深まった。
- ・分かりやすく大変勉強になった。

大学関係者

- ・実体験に基づくお話に感銘を受けた。
- ・憧れの先生の講演を聞くことができ感動した。
- ・心に残る素晴らしい講演だった。

●参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」

医学生

- ・クイズ形式で楽しく学ぶことができた。
- ・内容を整理しながら理解できた。
- ・災害医療について考える良い機会になった。
- ・正解の選択肢が意外なものであったところ（トイレの清潔さが保たれていないと心筋梗塞が生じやすくなるなど）では、なぜそうなるのかについても話していただき、理解が深まった。

中高生

- ・心のどこかで災害を「起こらないもの」と思っていた認識を改めるきっかけになった。

大学関係者

- ・クイズ形式で分かりやすかった。
- ・防災グッズなどを見直そうと思った。
- ・簡易トイレの大切さが分かった。

●学生による取組事例報告

医学生

- ・類似した研究テーマでも着眼点が全く違うことが面白く感じました。
- ・同じテーマでも着眼点の違いが興味深かった。
- ・同じ1年生の方たちが、地域住民の方々と触れ合う機会を自分たちで計画して実行していることに驚いた。

中高生

- ・医学生が地域活動をしていることを初めて知った。

大学関係者

- ・低学年の学生もしっかりとした意見を持っており、このプログラムに参加している学生が意欲的に取り組んでいる様子が良く分かった。
- ・内容が簡潔にまとめられていた。
- ・地域に根ざした活動で将来性を感じた。

●シンポジウム全体

医学生

- ・システムと自己決定の関係について考えさせられた。
- ・地域医療の理解が深まった。
- ・現地での質疑の様子、進行などとてもスムーズで、オンラインからの参加でも現地の様子がよく伝わってきた。

大学関係者

- ・非常に良いシンポジウムだった。
- ・勉強になる内容だった。

中高生

- ・進路に繋がる内容で、地域医療や防災について深く学べて良かった。クイズも2問正解できて嬉しかった。
- ・地域医療や防災について学ぶことができた。
- ・シンポジウムの内容が分かりやすく、医学知識が無いなりに新しく知れたことがたくさんあった。

■当日の様子



Ⅲ. 事業実施状況報告



・ 今後30年以
発生する確
(政府地震調査)



ポスター

地域から、日本の医療の未来を拓く

黒潮医療人養成プロジェクト 第4回 合同シンポジウム

2026. 3.14(土) 14:00-17:00 参加費 無料
オンライン参加OK (ハイブリッド形式) 受付開始 13:30~

会場：高知市文化プラザ かるぼーと 龍馬学園イベントホール (小ホール) 高知県高知市九反田 2-1

● 特別講演 高山 義浩 氏 (中規模立中等規模 感染症内科 地域ケア科)
「ポストパンデミックの地域医療を考える 増えた地域医療の未来図」

● 参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」

● 取組事例報告
プロジェクト参加学生の発表 など

高山 義浩 氏
徳島県立中央病院 感染症内科 地域ケア科
徳島大学医学部 感染症学講座 地域医療学講座
徳島大学 地域医療学講座 地域医療学講座
徳島大学 地域医療学講座 地域医療学講座
徳島大学 地域医療学講座 地域医療学講座

お申し込みはこちらから
お申し込みは、お申し込みの受付
受付開始 2026.3.4
お申し込み 2026.3.4
お申し込み 2026.3.4

主催：高知大学医学部
共同主催：徳島大学 地域医療学講座
095-858-2744 22 kushu@nagp@kchu-u.ac.jp

編集：高知大、(一社)高知医療協会、(一社)高知医療衛生機構

